

# 氷川瑣言

## 食糧増産の途

今や決戦情勢が緊迫して國民の食糧は之を國內の自給に待たざるを得ない状態である。今日あるよりも體力を盡すだけに多量に配給せねばならぬ國民の要求は此處に在る。故に其の重要産業中の重要産業たるは痛切に感ぜらる。山崎農相が食糧生産の必須的手段たる肥料や農器具の生産を五大重點産業なみに政府が取扱ふことを言明せられた。極めて當然の事ではあるが、か運かりし憾はあつて夫れでも今日此に着目せられ見直したるはさすがに山崎農相である。元來食糧は人間生命の源泉たる物資であるが故其生産は平時たると戦時たるとを問はず重要産業中の重要産業たるべきものである。従つて肥料及農器具の供給確保の爲めに其の生産を五大重要産業と同列に取扱ふことは何よりも緊切なる事で吾人は双手を擧げて賛成する。

## 比路志生

### 指導者と其の責任

官吏といへども人間である以上は人間として慾心があらう。私利心があらう。榮達心があらう。何も官人であるが故に聖人であり、義人であり、賢人であるべしとはいへない故に「天下滔滔として皆利の爲に來り天下壞として皆利のために往く」と史記にある如く世人が利の爲に動くに官吏のみが之に背くものでなからう。此思想を絶対に排除しなければ官吏となつたものの往くべき途でない。官吏を特殊民族の如く視ることは不可能であらうが、官吏は商人の如く利の爲めに常に動くものでなく、利に接することが至つて少ないのであるが反省し修養して行けば利に走らず利に往かざることを得るのである。假令容易の事でなくも能はざるにあらず行へば必ず其の道に達するであらう。

特に指導の位地に在るものが机上論的や形式的なやり方の通弊

は固かになつておる生きた人間の生活實體をつかまない仕方では唯空廻り丈けの事で權力を以て強制しても民衆をして離反心を引きしむるのみである、民衆に時局の認識が足らぬと責任を民衆に轉嫁するが如きことなく指導者が先づ身を以て之を行ひ禁煙禁酒の如きは勿論萬事萬端まつばだかになつて着のみ着のまゝで率先戰時生活に突入し手辨當式の生活振りこ出でなば民衆は合せずして何時の間にか其の感化を受けて追従する、之れが勝る抜く爲の要諦である。

### 地方行政協議會への期待

道州の設置を唱道したる者があつたが吾曹は府縣の併合を主張すること茲に幾年かである。要は府縣割據を打破するにあつた、然るに今次の支那事變乃至大東亞戰爭勃發の爲に産業問題乃至食糧問題が生じし府縣や府縣ブロックの設置では府縣の割據を打破することは不可能である、而かのみでなく地方行政だけで綜合統することは困難である故に一段と府縣の併合を緊切に感ずるに至つたのである。頃日地方行政協議會が創設せられ而かも中心地方の知事をして其の議長たらしめ之に加ふるに特殊地方行政官廳即ち財務官長鑛山局長 鐵道局長等を委員としたるは頗る當を得たる措置にして各種行政の綜合調整を期することを得、戦力増強を目標とする施策として適切である、併し折角の名新機構も運営上其の人

を得ざれば有害無益となるなきを保し難いのである、協議會長となる知事之を補助する幕僚長たるべき勅任參事官等は最も慎重に敏活に親切に積極的に事務の處理をすべきは素より論ずるを俟たざる處である。

### 戦力増強は人に依る

衆議院に於ける本年三月六日の決議を見ると廣く人材を登用し國民の創意熱情を旺んにし、以て生産擴充の障礙たるあらゆる原因は斷乎之を除去して速かに戦力の飛躍的増強を期すべしとある乃ち戦力増強の爲めにする生産擴充に障礙となるべき總ての事柄は之を除去せねばならぬのである。實に國民の心を融合調和し更に進んで各種の資源を開發し交通運輸を整備し、物資の交流を圓滑にし、生産力の擴大に猛進して軍事的にも經濟的にも大東亞共榮圏の確立を構成せざるべからざるの秋である。

戦力増強の一方策として地方行政協議會が生誕した。そして其の會長として閱歷上の大物が据えられた。勿論其の手腕に於て力量に於て德に於て技能に於て將た又清廉の點に於て十分人望を博するに足るのである、要するに一つの新制度として發表せられたのであるから其の活殺は實に會長其の人に在る之に依つて國民の創意熱情を旺んにし得るものと期待せざるを得ない、願くば吾人の期待に背かざらんことを。

## 米食と肉食

米二合三勺は、人間一人一日の食糧として十分であり、それ以上を攝取すれば澱粉過多となるといふ、しかし、それはこの二合三勺の米とともに適宜に副食物を攝る場合において然りであつてもしそれ、副食物において適量を缺くときは、栄養不足をまぬかれぬ、今日の日本人の食事には、蛋白質ならびに脂肪給源を缺く嫌ひがある。適當の肉食の必要は認めざるを得ない。乍併戦時下肉食は愚かなことである、偶々配給される牛肉でもと思へど筋入硬質の肉では何んとしても食はれない、せめて淡水魚の配給でもとひたすら求めてやまない状況である。農民が多食の已むを得ざるものがあるが都會のものも副食物中蛋白質又は脂肪質を缺いてはならないのである。

## 食糧増産は地主の責務

今更ら食糧増産でもあるまいが遅まきながら頃日食糧節約を論ずる者もあるが寧ろ食糧増産が聲高く叫ばれて來た、此れは理論ではない節米の消極に陥らず、大いに事實上増産しなければならぬ問題である。中央協力會議でも此の問題を取り上げ中心題目として食糧自給対策に付て種々の角度から發言が行はれた、其の内に於いて注目すべきは戦時下農村における地主の責務といふこと

にある。

凡そ地主は農村に於ける指導者といふべき位地にある、地主が衷心から協力しなければ如何なる問題でも片づかない場合が頗る多いのである、従つて現下の食糧問題を打開するには地主が減死奉公の心構を以つて積極的に活動することにある。乍併現實に於いて、地主の多くは増産への挺身に於いて、戦時生活の實踐に於いて缺くる所が少なくない、今日一人の徒食の徒をも許されないのに地主が消極的事勿れ主義安逸平居主義、安全第一主義に終始し、積極的に活動することの少ないのは遺憾千萬である、地主が農村に於ける中心勢力であり、指導者の地位にある以上地主は食糧増産に挺身すべき責務がある、若し此の責務を盡さざる地主ありとすれば其の者に對しては米の支配權を褫奪して可なるではなからうか。

